

# 平成23年度 新発田市遺跡出土品展

平成24年2月18日[土]～2月26日[日]／新発田市立図書館 坪川記念室

主催：新発田市教育委員会

## ごあいさつ

新発田市では、現在、市内の約700ヶ所で、遺跡が発見されています。このうち、市教育委員会では、開発に伴い失われる遺跡について、記録保存のための本発掘調査を行い、遺跡の範囲把握と保護のために、試掘・範囲確認調査を実施しています。

これらの発掘調査成果を、広く市民のみなさまに公開するため、本年度調査を行った新発田城跡(二ノ丸屋敷地及び外堀西側)からの出土品を中心に、展示会を企画いたしました。

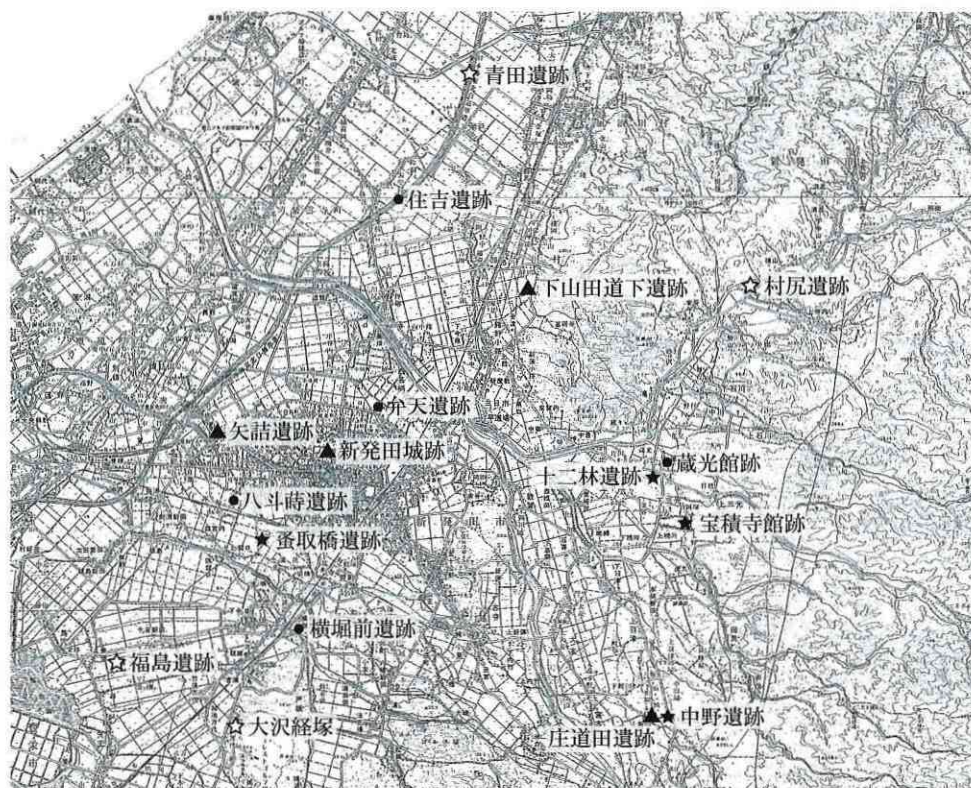
また、県および市では、郷土にとって特に貴重な文化財を指定し、保護に努めております。このたび、所蔵者のご厚意により、これらの指定文化財もあわせて展示できることとなりました。限られた期間ではありますが、どうぞごゆっくりとご覧いただき、先人の足跡と悠久の歴史に思いをはせていただければ幸いです。

### ■ 平成23年度の遺跡発掘調査

- ▲ 本発掘調査 新発田城跡(大手町6)/下山田道下遺跡(下山田)/矢詰遺跡(奥山新保)/庄道田遺跡(板山)
- 試掘・確認調査 蔵光館(蔵光)/矢詰遺跡(奥山新保)/横堀前遺跡(大伝)/弁天遺跡(中田町3)/八斗蒔遺跡(富塚町2)/住吉遺跡(中島)

### ■ 指定文化財 出土遺跡

- ☆ 県指定 青田遺跡(金塚)/村尻遺跡(下寺内)/大沢経塚(大沢)/福島遺跡(福島)
- ★ 市指定 中野遺跡(板山)/十二林遺跡(蔵光)/村尻遺跡(下寺内)/蚤取橋遺跡(竹ヶ花)/宝積寺館跡(上三光・上楠川)



## ■ 新発田城跡(第21地点)

所在地:新発田市大手町6-4-16

調査原因:陸上自衛隊新発田駐屯地内建物建設

調査面積:1,121㎡

調査期間:平成23年8月1日～10月21日

### ○遺跡の概要

新発田城跡は、市街地中心部(大手町)に位置する、藩主溝口氏の居城です。城址公園として、現存する本丸石垣と表門、二ノ丸隅櫓(昭和35年に本丸へ移築復元)、辰巳櫓・三階櫓(平成16年に復元)が整備されています。新発田城跡ではこれまでに20数箇所を発掘調査を行っており、今回は白壁兵舎の移築予定地(三階櫓の南西200m程の陸上自衛隊新発田駐屯地内)を調査しました。調査地は二ノ丸の屋敷地と外堀にあたります。江戸時代終わり頃から明治時代初め頃の絵図面によると、「堀丈大夫」・「堀数衛」などの「堀」姓を名乗る新発田藩重臣(家老職)の屋敷地だったようです。



調査区全景(南西から)

坑が並び、深さ1mに達するものもありました。土坑底からは地下水が湧いており、壁が崩れて、形が不ぞろいになったようです。中からは江戸時代終わり頃の陶磁器類、木製品が多数出土しました。木製品の中には、「堀」の焼印がある木札や江戸時代末期「萬延元」(1860)年の年号が記された木簡がありました。

外堀は幅26m・深さ2mで、両岸に杭で固定された護岸の横木が残っていました。新発田城の外堀は廃城後、全て埋められていました。これまでに三度、部分的な発掘調査を実施していますが、今回の調査により、はじめて、両岸の状況、堀底の様子や深さが明らかになりました。堀からは「越後沼垂/御水飴所/あめや九郎三郎」の焼印がある曲物の蓋などが出土しました。

外堀の東岸と二ノ丸屋敷地の間は、幅約5mの範囲で江戸時代の遺構がありませんでした。後世の整地により盛土は残っていませんが、この部分に土塁が巡っていたと考えられます。

なお、この付近の土坑で火葬骨がまとまって出土、調査区①でも六道銭を伴う室町時代の土坑墓2基と、数珠玉15個が出土した小土坑が発見されました。新発田城が築城される以前は、付近に墓地が営まれていたことが判明しました。

### ○発掘調査の概要

調査は、建物本体と付帯施設、進入路部分の3地区で実施しました。北端部の調査区①と中央部の調査区②の東半で二ノ丸屋敷地、調査区②の西半部と南端の調査区③で外堀及びその西岸が見つかりました。

調査範囲からは、近世及び古代・中世の土坑43基、井戸1基、溝5条などが発見されました。二ノ丸屋敷地にあたる範囲には径3～4m程の不定形な土



木製品が出土した土坑

あおた

■ 青田遺跡出土品 (各種出土品 2076点)

発見地(遺跡所在地):新発田市金塚字青田  
 発見時期・理由:平成11~13年 高速道路に伴う発掘調査

低湿地に位置する青田遺跡は、地下水に守られ、丸木舟をはじめとする木製品(櫂・籠類・草壁)・動物遺体(堅果類・貝類)・漆製品(漆塗り糸玉・腕環・櫛・弓・漆用具)などの有機質遺物が豊富に出土しました。調査では、川跡と、川岸に立ち並ぶ50余棟の掘立柱建物の柱根が見つっています。出土品とあ



丸木舟出土状況

わせ、縄文時代晩期末(約2,500年前)の河岸集落の様相を良く示す好資料です。(新潟県教育委員会蔵)

むらじり

■ 村尻遺跡 ヒト形土器・壺型土器 (2個)

発見地(遺跡所在地):新発田市下寺内字前坪  
 発見時期・理由:昭和56年 県営ほ場整備に伴う発掘調査  
 再葬墓用土器で、第12号土坑から出土しました。

「再葬」は、遺体を一旦埋葬し、後に骨を取り出して墓に納め直す葬法です。壺を使う「壺棺再葬墓」は、弥生時代前期~中期頃(約2,200年前)、東日本で盛行しました。骨壺用に、人面表現を持つ「土偶形容器」が作られる場合があり、「ヒト形土器」はこの流れを汲む特別な土器です。しかし、頭部の無い、体部表現だけのものは、全国的にも例がありません。

また、指定品2個は同じ土坑の隅から出土。土坑中央には人の埋葬され得る空間が残されていたことから、土葬と再葬を同時に行った、特殊な墓と考えられます。

なお、ヒト形土器の造形は、美術的にも高く評価されます。(新発田市教育委員会蔵)



上:ヒト形土器(高45.3cm)  
 下:壺形土器(高66.5cm)

おおさわきょうづか

■ 大沢経塚出土品

(銅製経筒1口・経巻残欠・木製経軸10本・短刀2口)

発見地(遺跡所在地):新発田市下飯塚字大沢  
 発見時期・理由:明治31年、地藏堂建立の整地中に出土  
 地藏尊の台座内に保管されていたが、昭和38年再出

経塚への埋経は、平安時代末に始まった信仰活動です。乱れた世(末法の世)の後、衆生救済のために弥勒菩薩が再生するという考えから、未来に經典を伝える目的で行われました。

大沢の経筒は高さ27.5cm、平安時代末(12世紀後半)の作と見られる鑄銅製で、木炭に覆われ、短刀2振りが添えられていたそうです。中には経巻が納められており、法華経8巻とその開教・結経と判読できました。紙は傷んでいたものの、筆跡からの5名以上の人物が写経に参加したことがわかり、当地域での信仰活動の様相を示す好資料です。

なお、昭和52年に地藏堂を立て直した際、同地点から木炭・刀片と共に珠洲焼の甕・片口鉢が出土。経筒の外容器であった可能性があります。(地元地区蔵)



ふくじま しょうこ

■ 福島遺跡 鉦鼓(1口)

発見地(遺跡所在地):新発田市福島字屋敷付

発見時期・理由:昭和41年 畑地の開田作業時に発見  
 鎌倉時代末の製作で、県内最古。直径21cm、高さ5.6cmの青銅製です。鉦鼓は、時宗の僧が念仏を唱える際に、紐で下げて打ち鳴らした打楽器です。

側面に「正和元年(1312)壬子六月日 従阿弥陀佛」と刻銘があり、所有者が「従阿弥陀佛」を称していたことがわかります。

当時の信仰の様子を今に伝える貴重な資料です。

(個人蔵)



新発田の指定文化財 一市指定文化財一

■ <sup>いたやまなかの</sup>板山中野遺跡出土品(注口土器2個・土偶3個)

発見地(遺跡所在地):新発田市板山字中野  
発見時期・理由:昭和42年 市道造成に伴う発掘調査

いずれも、縄文時代後期末(約3,300年前)のもの。注口土器2個には、当期に特徴的な貼り瘤と細い粘土紐の模様が施されています。人面を写實的に模す土偶も、当期の典型例です。これらは、縄文時代後期末から晩期への過渡期の様相を良く表す中野遺跡の出土品

の中でも、特に優品といえます。(市教育委員会蔵)



■ <sup>くらみつじゆうにばやし</sup>蔵光十二林遺跡出土品(注口土器1・壺形土器2)

発見地(遺跡所在地):新発田市蔵光字南  
発見時期・理由:昭和27年 工所用盛土採取のため、水田床土の掘削時に、3個が1つの大甕に入って出土。

人が手をつなぎ踊る意匠の装飾が巡る壺、横向き水滴形の異形注口土器、丁寧に磨かれた無文の壺、3点とも縄文時代後期末(約3,300年前)に位置づけられます。特殊な器形・文様を持つこれらの土器は、祭祀的な意図のうかがわれる一括

出土品であり、学術的価値と共に、美術的にも高く評価されます。(個人蔵)



■ 村尻遺跡弥生時代出土品(壺形土器7個・広口壺形土器1個・鉢形土器1個・深鉢形土器2個)

発見地(遺跡所在地):新発田市下寺内字前坪  
発見時期・理由:昭和56年 県営ほ場整備に伴う発掘調査

4基の再葬墓から出土した土器11個が、指定を受けています。最大の再葬墓である第91号土坑からは、6組8個(2個は蓋に使用)の土



器が隙間なく並べられて出土しました。東日本ではこの時代、集落遺跡の発見例が少なく、生活の状況に不明な点が多いなか、墓地遺跡ながら出土状況が明確な本遺跡出土品は、学術上大変貴重です。(新発田市教育委員会蔵)

■ <sup>のみとりぼし</sup>蚤取橋遺跡出土古墳時代木製品(剣形1点・刀形1点・斎串4点・<sup>はしご</sup>梯子1点)

発見地(遺跡所在地):新発田市竹ヶ花字菱川谷内  
発見時期・理由:平成18年 県営ほ場工事に伴う発掘調査

6世紀の川跡から発見された木製品。この時期のものは、県内では希少品です。梯子は長さ335cm、高床式建物の出入り



口用。ほぼ全長の残る例は全国的にも珍しく、年代測定の結果、5~6世紀前半の材と判明しました。剣形・刀形木製品と斎串は、祭祀具です。(市教育委員会蔵)

■ <sup>ほうしゃくじやかた</sup>宝積寺館跡出土 <sup>ほくしよいたび</sup>墨書板碑(1点)

発見地(遺跡所在地):新発田市上三光字円満・上楠川字大門  
発見時期・理由:昭和63年 県営ほ場整備に伴う発掘調査

長さ39.5cmの自然石に墨書した板碑。竹俣氏の館跡で、後に菩提寺となった遺跡から出土。阿弥陀仏を表す種子「キリーク」と観音経の一部、「勝光禅尼」追善供養のために製作したという趣旨が書かれています。碑文の一部が薄れて判読できませんが、残る部分の検討から、16世紀中頃の作と推測されます。

また、前面に隙間なく文字の書かれていることから、製作当初から、立ててではなく寝かせた状態で使用するように作られたものと考えられます。(新発田市教育委員会蔵)



平成23年度 新発田市遺跡出土品展 解説

発行日:平成24年2月18日

編集・発行:新発田市教育委員会 TEL:0254-22-9534

(〒959-2323 新潟県新発田市乙次281番地2)

※各指定文化財は、指定名称を記載しております。ご了承ください。